



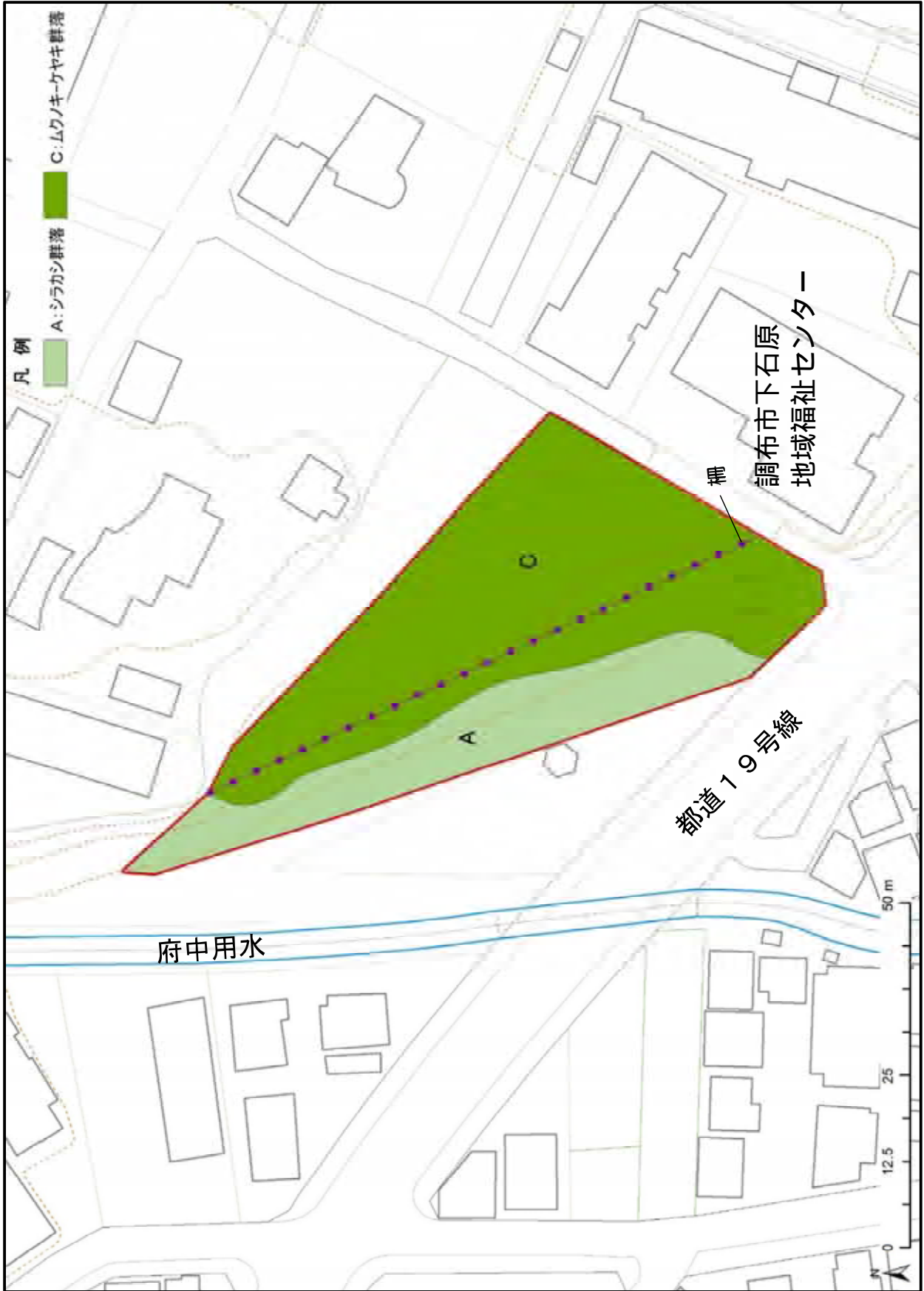
出典：「平成 27 年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川崖線・布田崖線）」（平成 28 年 3 月，調布市）一部改編

図 4 - 15 布田崖線（上石原地区） 現存植生図



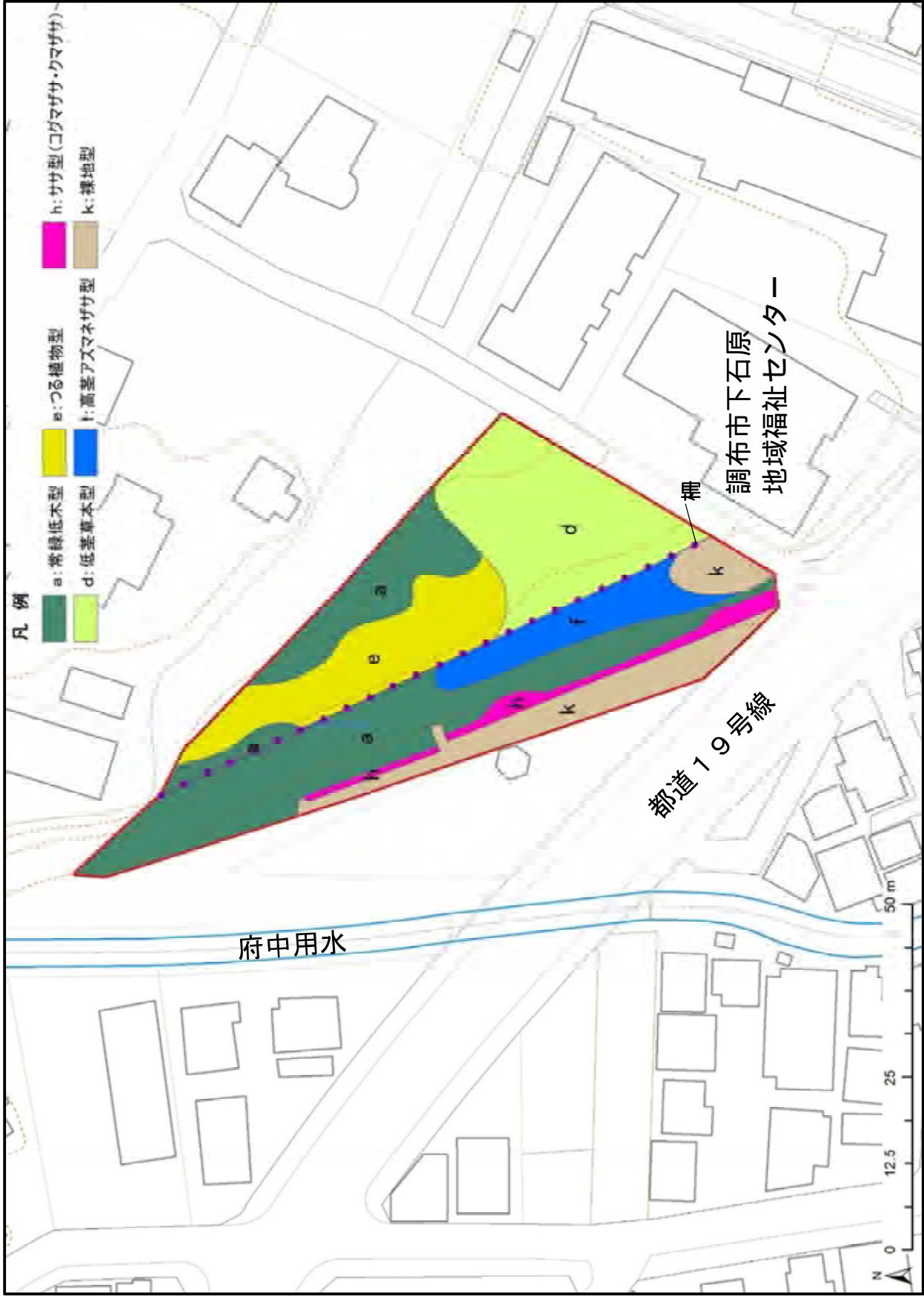
出典：「平成 27 年度産緑樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川産緑・布田産緑）」（平成 28 年 3 月，調布市）一部改編

図 4 - 16 布田産緑（上石原地区） 林床植生図



出典：「平成27年度産線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川産線・布田産線）」（平成28年3月，調布市）一部改編

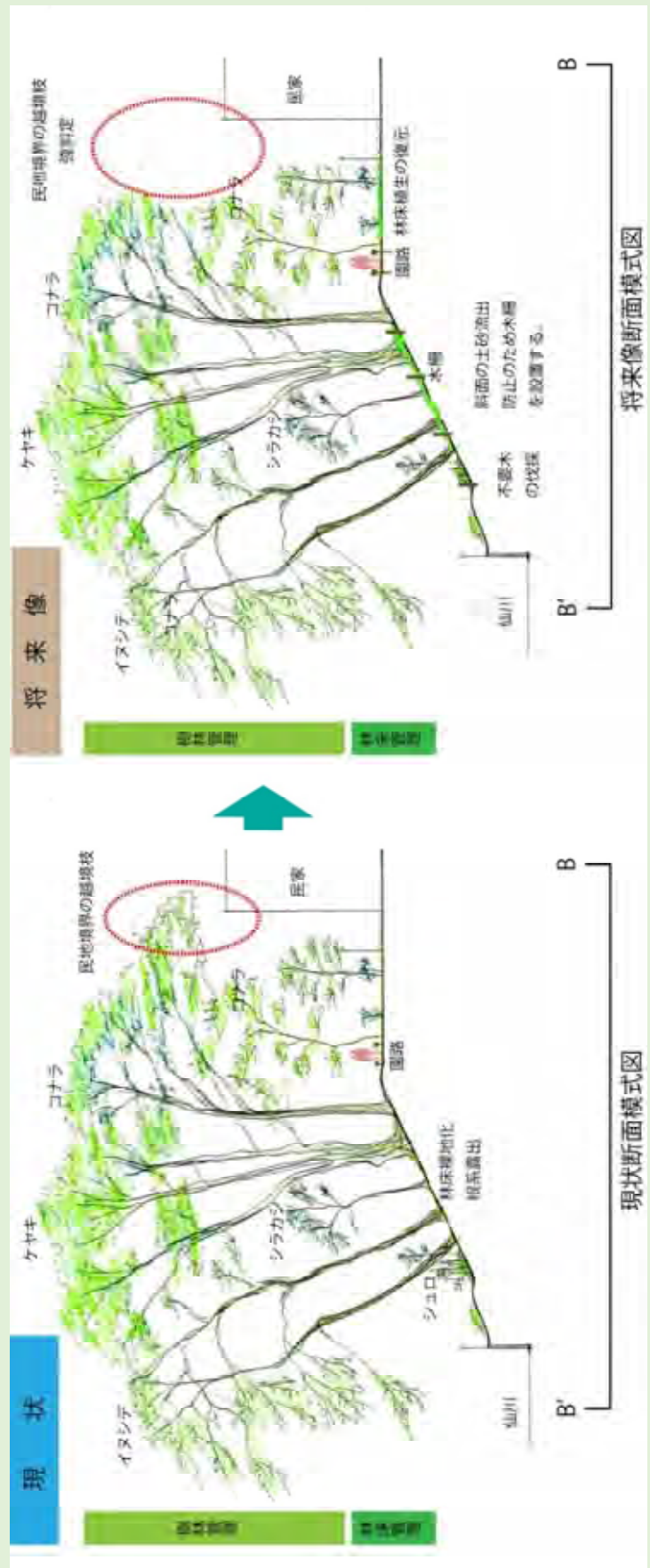
図4-17 布田産線（下石原地区） 現存植生図



出典：「平成27年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川崖線・布田崖線）」（平成28年3月，調布市）一部改編

図4-18 布田崖線（下石原地区） 林床植生図

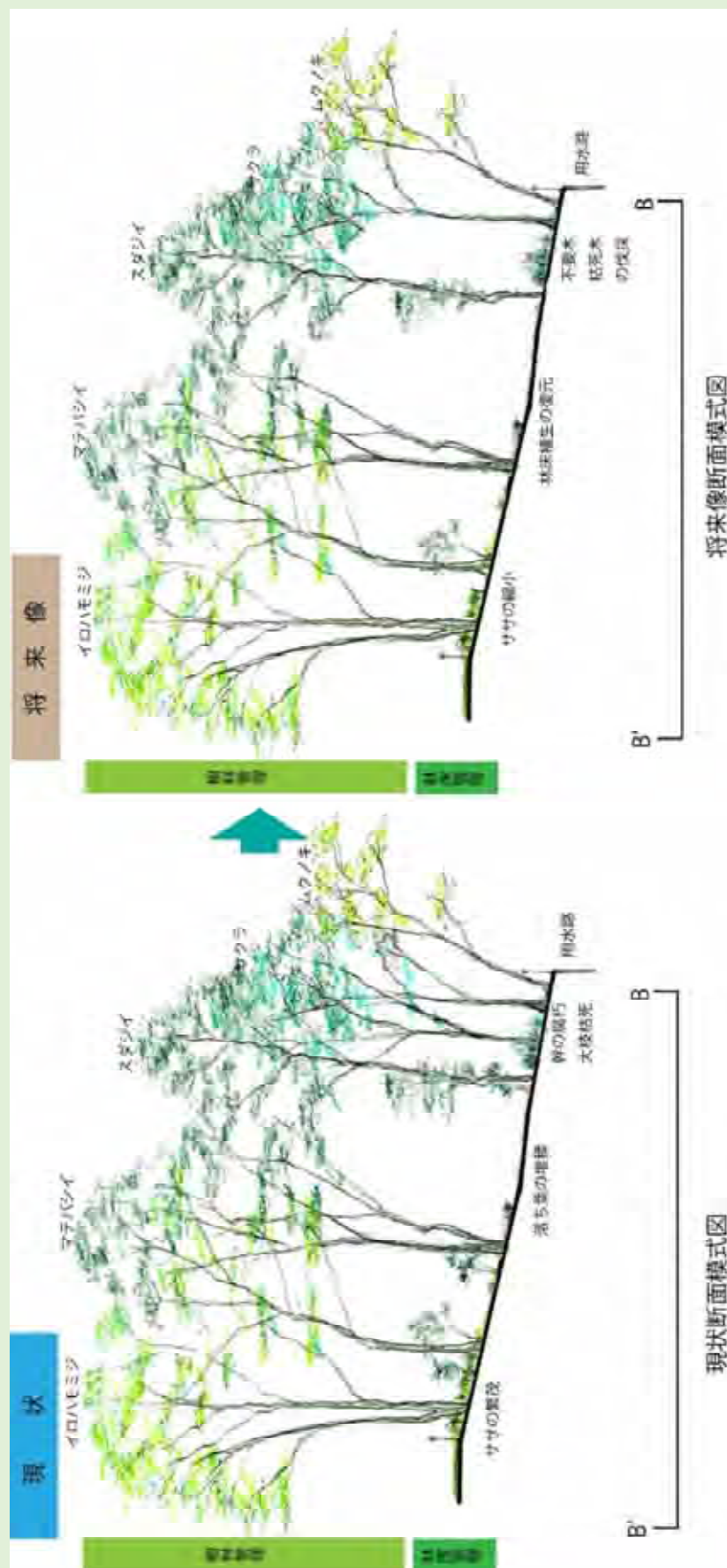
仙川崖線の将来像



出典：「平成27年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川崖線・布田崖線）」（平成28年3月、調布市）

図4-19 仙川崖線 将来像

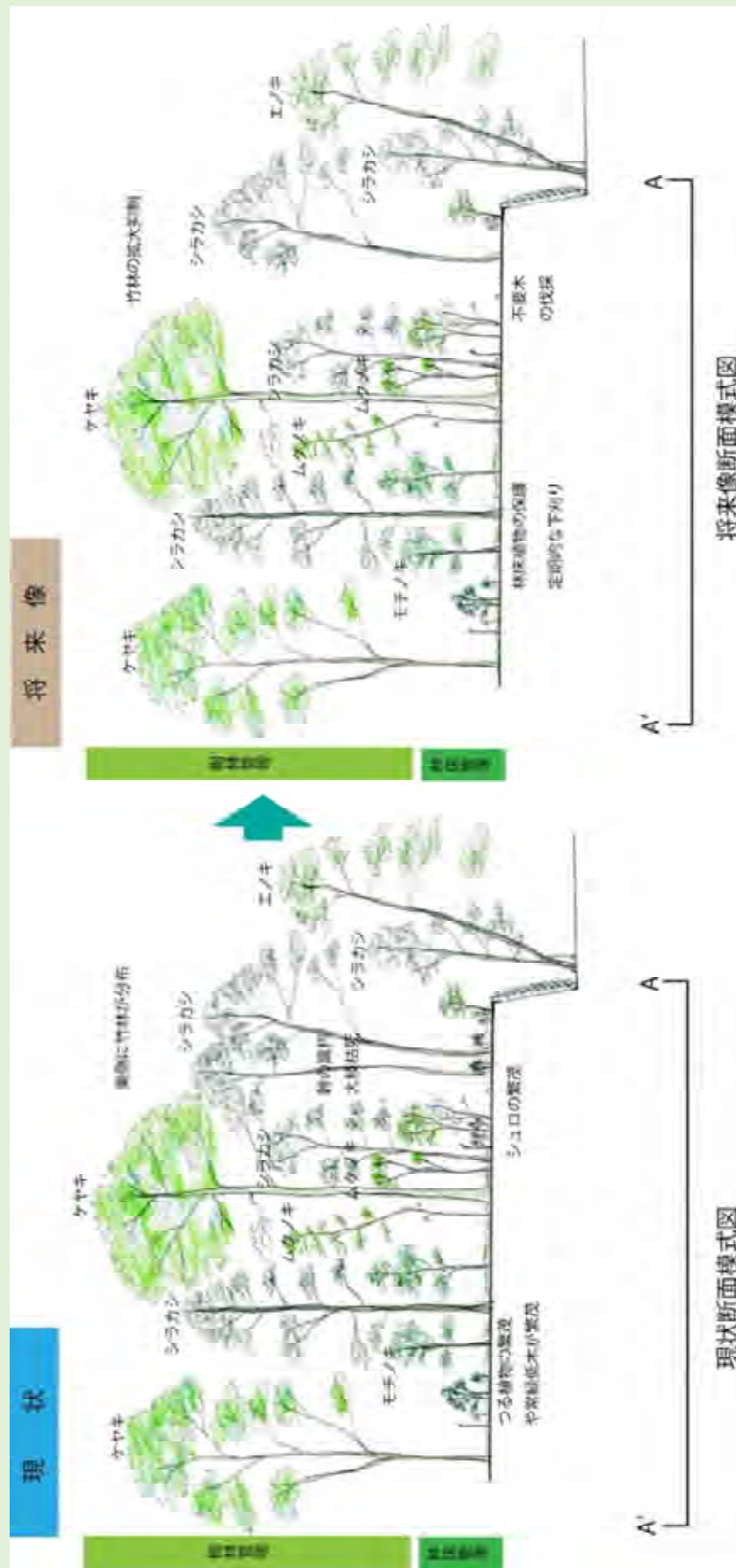
布田崖線（上石原地区）の将来像



出典：「平成27年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（山川崖線・布田崖線）」（平成28年3月，調布市）

図4-20 布田崖線（上石原地区） 将来像

布田崖線（下石原地区）の将来像



出典：「平成27年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（山川崖線・布田崖線）」（平成28年3月，調布市）

図4-21 布田崖線（下石原地区） 将来像

【仙川崖線，布田崖線（上石原地区・下石原地区）の保安全管理計画】

—基本方針「利用の方針」・「保全の方針」—

【仙川崖線】

基本方針

- 利用の方針** ・既に一般開放されている緑地であるが，急傾斜地が連続しているため，利用エリアを制限し管理する。
- 保全の方針** ・台地面や緩傾斜地は裸地化しているため，低茎草本の回復，再生に努める。
- ・既に一般開放されている緑地であるが，急傾斜地が連続しているため，利用エリアを制限し管理する。

【布田崖線（上石原地区）】

基本方針

- 利用の方針** ・斜面樹林の樹木や様々な植物を活用した，自然学習，環境学習など限定的な利用とする。
- 保全の方針** ・市民と行政との協働のもと，多様な植物や小動物とふれ合える環境を目指す。

【布田崖線（下石原地区）】

基本方針

- 利用の方針** ・台地面については，林床植物の保護及び回復を図るため人の立入りを一定期間制限する。
- ・西側急斜面地は安全管理上閉鎖管理とする。
- 保全の方針** ・急斜面地の保護と斜面樹林の樹勢維持や倒伏防止を図る。
- ・台地面の林床植物の保全を図るとともに生育環境の改善に努める。

出典：「平成 27 年度崖線樹林地保全方法調査検討業務報告書（仙川崖線・布田崖線）」（平成 28 年 3 月，調布市）

③国分寺崖線 入間町 2 丁目緑地

本地区は、地域全体で国分寺崖線の緑や野川などの自然環境を守り、自然環境と調和したゆとりある住環境を備えた街づくりを目指しており、国分寺崖線の緑を保全しつつ、秩序ある土地利用を図っている。

ここでは、緑地保全地区を設定し、地区の中央に当たる斜面緑地及びその周辺の雑木林を含んだ緑地を地域の資源として自然環境を保全することとしている。また、緑地保全地区は市有地（緑地）、所有地の国分寺崖線緑地保全地域が連なり、これらの斜面緑地にはシラカシ、アカマツなどの常緑樹、コナラ、イヌシデなどの落葉樹のほか、林床ではキンラン、ギンランなどの貴重な植物、タヌキやアマガエルなどの野生生物も確認されている。^{注)}



図 4-22 入間町 2 丁目緑地 (国分寺崖線緑地保全地域) 周辺

注)：「NTT 中央研修センター南側敷地開発事業における自然環境調査 (平成 27 年度：春季，夏季) 報告書」
(平成 27 年 9 月，東日本電信電話株式会社)

④国分寺崖線 深大寺元町3丁目緑地、佐須町5丁目緑地

[国分寺崖線 深大寺元町3丁目]

本地区は、崖線樹林地をはじめとしたまとまりのある緑の場所として、良好な景観を形成し、また、生き物の生息・生育環境としても貴重な緑地である。そのような貴重な緑を次世代へ引き継ぐため、「調布市緑の基本計画 改定版」(平成23年3月)に基づき、特別緑地保全地区指定に向けて調査・検討を行っている。

ここでは、中央にシラカシやケヤキなどが繁茂する広い屋敷林がみられ、西側にモウソウチクやマダケなどの竹林、東側にクヌギやコナラなどの落葉樹の林が広がっている。

[国分寺崖線 佐須町5丁目]

本地区は、学校や住宅の敷地を含む崖線樹林地をはじめとしたまとまりのある緑の場所として、自然豊かな貴重な緑地である。ここではそのような貴重な緑を残し、より広くまとまりのある緑を保全地区として設定していくため、調査・検討を行っている。

ここでは、学校敷地内にクスノキの広い林があり、高密度で優占している。このほか、西側にはクヌギやコナラなどの落葉樹、東側にはモウソウチクやマダケなどの竹林が広がっている。

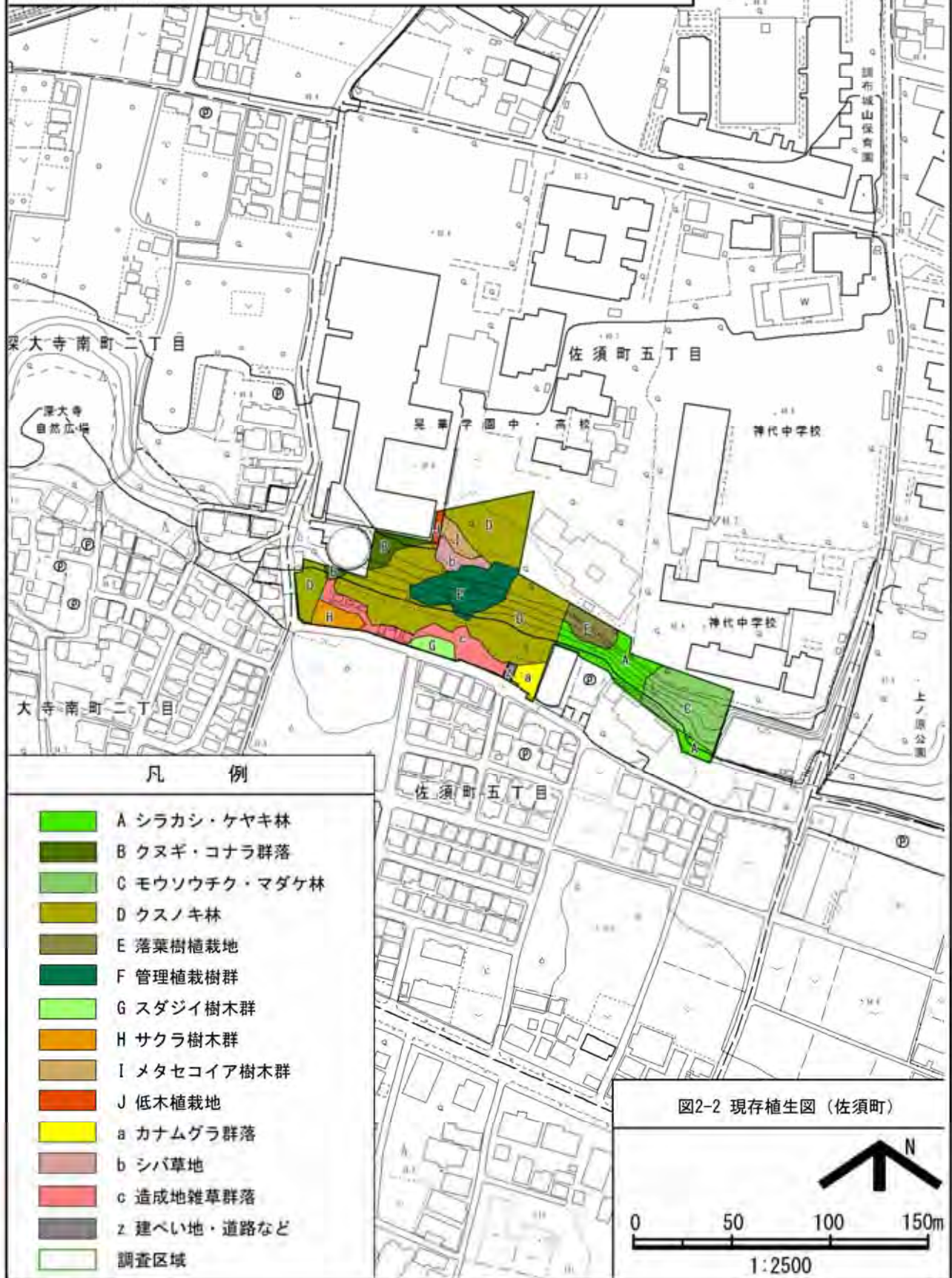
「この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺1/2,500の地形図（平成27年度版）を使用して作成したものである。ただし、計画線は、都市計画道路の計画図から転記したものである。無断複製を禁ず。（承認番号）27都市基街都第215号、平成27年12月1日」
 「この地形図は、東京都都市整備局およびミッドマップ東京の東京都1/2,500地形図を使用して作成したものである。（承認番号）MMT利許第27052号-85」



出典：「平成 27 年度 地域制緑地制度活用調査検討業務委託報告書」（平成 28 年 3 月，調布市）一部改編

図 4-23 深大寺元町 3 丁目緑地（国分寺崖線）周辺

「この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺1/2,500の地形図（平成27年度版）を使用して作成したものである。ただし、計画線は、都市計画道路の計画図から転記したものである。無断複製を禁ず。
 （承認番号）27都市基街都第215号、平成27年12月1日」
 「この地形図は、東京都都市整備局およびミッドマップ東京の東京都1/2,500地形図を使用して作成したものである。
 （承認番号）MMT利許第27052号-85」



出典：「平成27年度 地域制緑地制度活用調査検討業務委託報告書」（平成28年3月、調布市）一部改編

図4-24 佐須町5丁目緑地（国分寺崖線）周辺

(2) 崖線の変遷

調布市の管理地となっている崖線樹林地である「国分寺崖線」、「仙川崖線」及び「布田崖線」の3エリアでは、図4-25、表4-4に示したとおり、各崖線ともに徐々にではあるものの減少してきている。特に、布田崖線では昭和62年の4.8haから平成27年は2.5haと約1/2まで顕著に減少している。このような減少傾向にある要因としては、周囲の宅地化等の開発による林縁部の消失や人の樹林内への進入等による踏圧等、様々な影響が考えられる。

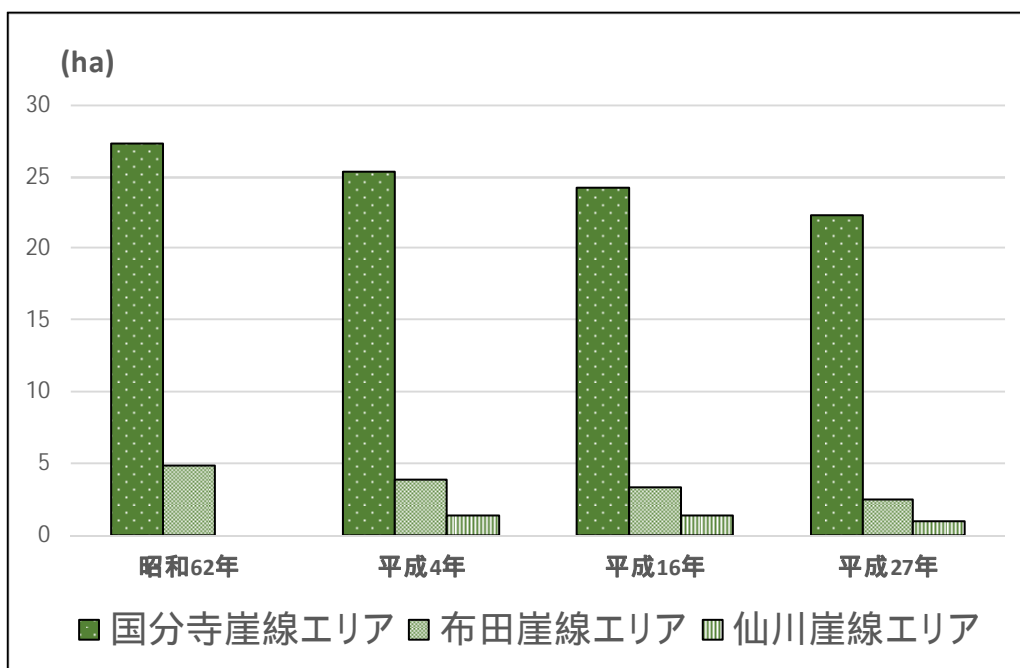


図4-25 崖線樹林地の変化状況

表4-4 崖線面積の推移

崖線名	面積 (ha)			
	昭和62年	平成4年	平成16年	平成27年
国分寺崖線エリア	27.3	25.4	24.3	22.3
布田崖線エリア	4.8	3.8	3.3	2.5
仙川崖線エリア	0.0	1.4	1.3	0.9

注) 平成27年は、航空写真より樹林地を抽出した。

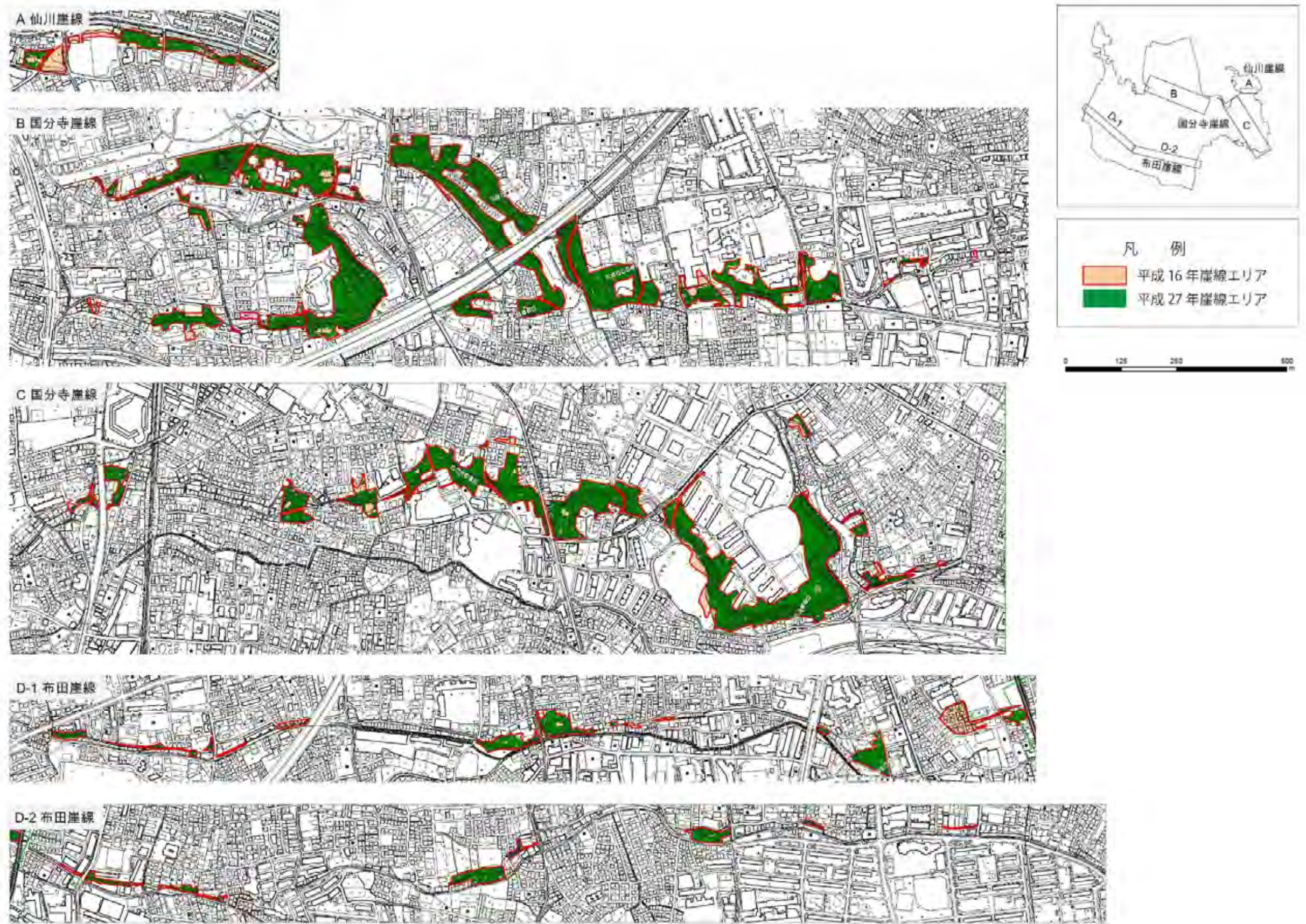


図 4-26 崖線樹林地の変遷